

事業所名: カーサ・パラディソ

令和7年度
福祉サービス第三者評価
評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社 福祉経営情報サービス

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和7年度)

2025 年 8 月 12 日

カーサ・パラディソ
管理者 武藤利夫殿

郵便番号 104-0061
東京都中央区銀座6-6-1 銀座風月堂ビル5F
所在地

評価機関名 合同会社 福祉経営情報サービス

認証評価機関番号
電話番号 03-5537-7750
代表者氏名 渡邊廣貴

機構 07 - 172



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	渡邊廣貴	経営	H0403033
	②	川邊明美	福祉	H2001044
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別		短期入所		
調査対象事業所名称		カーサ・パラディソ		
事業所連絡先		郵便番号	327-0503	
		所在地	栃木県佐野市富士見町1-4	
		電話番号	0283-85-8787	
事業所代表者氏名		武藤利夫		
契約日		2025 年 5 月 16 日		
利用者調査票配布日(実施日)		2025 年 6 月 2 日		
利用者調査結果報告日		2025 年 6 月 21 日		
自己評価の調査票配付日		2025 年 6 月 2 日		
自己評価結果報告日		2025 年 6 月 21 日		
訪問調査日		2025 年 6 月 25 日		
評価合議日		2025 年 7 月 14 日		
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)		利用者調査(アンケート): ・配布は事業所に協力をして頂いた。 事業評価: ・経営層自己評価の中で課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り現状の把握に努めた。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

2025 年 8 月 12 日

事業者代表者氏名 カーサ・パラディソ 管理者 武藤利夫



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)自然治癒力の向上と自然との共生 2)人々の居場所を作り出す 3)職員や利用する方々が主役 4)社会に必要とされる法人 5)地域に根付いた愛される施設
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・家庭的な雰囲気を大切に支援ができる方 ・利用者主体での支援ができる ・できることは利用者本人が行い、職員はその補助的役割としての支援が出来る
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・利用者の自己肯定感を高められるかわり方 ・一人一人が主役になれる場所の提供 ・利用者ファーストの考え方

調査対象

調査時に事業所を利用している利用者全員を対象として、事前案内の上、アンケートによる調査を実施した。

調査方法

アンケート調査：案内文を作成して周知の上、事業所が利用者に調査票を配布し、評価機関への郵送により回収した。

利用者総数

5

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
5	0	5
4	0	4
80.0	0.0	80.0

利用者調査全体のコメント

施設の総合的な満足度に関する質問では「大変満足」が25%、「満足」が50%、「どちらともいえない」が25%であった。「不満」「大変不満」の選択はなく、回答者の75%が「大変満足」「満足」のどちらかを選択している。総合的な感想としては、食事について「味がバラバラ」という意見が得られている。個別の設問での自由意見は少なかった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 利用中の生活はくつろげるか	4	0	0	0
4名全員が「はい」を選択している。				
2. 事業所の設備は安心して使えるか	1	3	0	0
4名中1名が「はい」を選択している。				

3. 利用時の過ごし方は個人のペースに合っているか	2	1	1	0
4名中2名が「はい」を選択している。この設問では1名が「いいえ」を選択している。				
4. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	1	1	1	1
4名中1名が「はい」を選択している。この設問では1名が「いいえ」を選択している。				
5. 職員の接遇・態度は適切か	2	2	0	0
4名中2名が「はい」を選択している。				
6. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	2	2	0	0
4名中2名が「はい」を選択している。				
7. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	2	0	2	0
4名中2名が「はい」を選択している。この設問では2名が「いいえ」を選択している。				
8. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	2	2	0	0
4名中2名が「はい」を選択している。				
9. 利用者のプライバシーは守られているか	3	0	1	0
4名中3名が「はい」を選択している。この設問では1名が「いいえ」を選択している。				

10. サービスの利用に当たって、利用者の状況や要望を聞かれているか	2	1	1	0
4名中2名が「はい」を選択している。この設問では1名が「いいえ」を選択している。				
11. サービス内容に関する職員の説明はわかりやすいか	4	0	0	0
4名全員が「はい」を選択している。				
12. 利用者の不満や要望は対応されているか	3	1	0	0
4名中3名が「はい」を選択している。				
13. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	1	2	1	0
4名中1名が「はい」を選択している。この設問では1名が「いいえ」を選択している。				

I サービス提供のプロセス項目（サブカテゴリ1～3、5～6）

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	サブカテゴリ1の講評	
活動の様子や職場環境改善の取り組みなどをウェブページで公表し、透明性を高めている 法人のウェブページでは、法人概要や、「自然治癒力の向上と自然との共生」という運営方針や農福連携という支援の在り方、法人ビジョン、実施している各事業、各施設の情報が案内されている。情報開示のページでは毎年度の現況報告書などのほか、県内にある同法人の施設が受審した第三者評価の結果などが公開されている。また、職場環境改善の取り組みを公開している。事業所のページでは施設長からのメッセージや施設の概要が写真を交えて紹介されており、併設する就労継続支援B型事業で実施している畑作業の様子なども紹介されている。 地域との連携の中で関係機関とつながり、事業所情報の提供がされている 県や佐野市、社協の連絡協議会との連携があり、そのほか、地域の各種イベントへの職員の参加等もある。社協の冊子に施設の紹介記事が掲載されるなど、関係機関とのつながりによる地域への情報提供がなされている。 他施設での受け入れが困難な利用者を受け入れているため、県内だけでなく他の自治体からも多くの問い合わせがあり、県外からの利用者を広く受け入れてそのニーズに応えている。問い合わせは病院のケースワーカー、相談支援事業所や支援学校からもあり、問い合わせがあれば現地に赴くこともして、受け入れを検討している。 問い合わせがあったときは見学をしてもらっており、任意で体験宿泊も可能である 問い合わせがあったときは基本的には施設見学をもらっている。体験宿泊は任意であり、希望すれば宿泊が可能であるが、見学後そのまま利用に至る場合や、体験宿泊を利用する人もいる。また、日中の作業などの向き不向きから断る人もいる等、利用を決定する前段階で本人が判断できる環境となっている。見学・体験後は利用希望者の家族や相談員、ケースワーカーなどと検討のうえ、利用の可否の判断をしている。		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者等の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者等の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者等の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
契約時は重要事項説明書に沿った説明がされている 見学時に得られた利用者や関係者の意見などは法人内の施設間で共有している。当初の情報収集は法人で担当しており、利用者本人の希望は利用前の居所に訪問するなどして聞き取り、記録し内部で共有している。契約時はサービス内容と負担金、苦情窓口や虐待防止の措置などについて重要事項説明書を用いて説明しており、個人情報の利用目的については同時に進める就労支援B型事業の契約と併せて説明し、写真等肖像の使用等についても同意を得ている。重要説明事項と契約書については掲示しており、漢字にふりがなを振り利用者に向けた配慮がされている。			
収集した情報に基づき、本人の特性を理解して支援を開始することに努めている 利用開始前に得られた利用者の生活や行動に関する情報に基づき、生活面や対人関係、作業力、問題行動の有無などを評価し、職員間で共有したのちにサービスが開始されている。利用当初は利用者を明るく迎え入れられるよう体制を整え、部屋の配置なども本人の特性を把握して決定し、不安軽減に留意している。また、疎外感を感じないよう話を聴くことにしている。家族からの話で本人のこだわりを確認し、極力尊重する事にしており、それまでの生活で慣れ親しんだ枕や人形、毛布等も持ち込んでもらい穏やかに過ごせることを大切に考え支援を開始している。			
併設のグループホームがあり、自立に向けた移行がしやすい環境がある 短期入所の利用後は法人内のグループホームへの移行が多く、施設1Fで運営されているグループホームの利用者はその8割が短期入所からの移行である。そのほかに利用者の地元である他県のグループホームへの移行などもあるが、施設内にグループホームが併設されており、慣れた環境のまま自立に向けた移行できるのは強みである。他への移行時は連絡や調整を丁寧に行うことに留意して、家族に意向を確認し、相談員を通した移行先との情報交換や移行先への情報提供をしている。			

サブカテゴリー3			
3	個別状況に応じた支援方針作成・記録	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	11/11
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		☐ 非該当
評価項目2 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援方針を作成している 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 支援方針は、利用者等の希望を尊重して作成、見直しをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 支援方針を利用者等にわかりやすく説明し、同意を得ている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 支援方針は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 支援方針を緊急に変更する場合のしきみを整備している		☐ 非該当
評価項目3 利用者に関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者一人ひとりに関する必要な情報を記載するしきみがある		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 支援方針に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		☐ 非該当
評価項目4 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 支援方針の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者に変化があった場合の情報について、職員間で送り・引き継ぎ等を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー3の講評			
毎月のアセスメント会議により利用者個々の情報を共有し、課題出しをしている 令和7年4月から職員会議の中で毎月アセスメント会議を開催し、利用者個々の情報共有と課題出しをしている。毎月、3名から5名の利用者について議題に挙げて、基本情報と生活全般、性格や行動の特徴などについてアセスメントを実施しており、利用者個別には3～4か月に一度の頻度でアセスメントが行われている。利用者の情報は職員会議の中でアセスメントに勤務者全員が参加することで共有がされており、薬の変更などについても情報共有がされている。参加しない人は議事録を確認し、押印することで共通認識が持てるようにしている。			
日中活動と一体となった計画および支援がしやすい環境がある 利用者面談については定期的に実施しているわけではなく、利用者から要望があれば20～30分の時間をとって実施している。個別支援計画は日中活動と共用し、本人、家族の要望を踏まえて支援目標を設定し、具体的な目標及び支援内容を明らかにして作成されており、定期的に評価が実施されている。計画は人により3か月から6か月のスパンで、計画期間内にアセスメントをおこなった上で作成されている。利用者が通所する併設の就労継続支援B型事業と整合性のある計画であるため、日中活動と一体となった計画および支援がしやすい環境となっている。			
利用者個々の生活状況を把握し、支援方針を共有して支援にあたっている 利用者の日々の生活の様子については、頻繁に訪室の機会を持ち、その時の様子をケース記録に記録している。ケース会議は2か月に1度、サービス管理責任者を兼務する施設長、看護師、事務職員、支援員が参加して実施されている。アセスメント会議ではケース記録に基づき、利用者個々の普段の生活状況を話し合っ支援内容を検討しており、アセスメント会議において利用者個々の状況と支援方針を共有して日々の支援が実施されている。引き継ぎは朝、昼、夕のシフトに合わせて実施されており、記録と口頭により申し送りされている。			

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 利用者のプライバシー保護を徹底している		評点(○○○)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 個人の所有物や個人宛文書の取り扱い、利用者のプライベートな空間への出入り等、日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮した支援を行っている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(○○)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)	○非該当	
◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
日常生活の中での利用者個々のプライバシーを尊重している 個人情報の利用目的については 併設する就労継続支援B型事業において同意書に利用目的を明示して同意を得ている。日常生活の中では、利用者宛の封書は本人が開封、また、荷物は本人の同意を得たうえで本人と一緒に開封している。職員に対しては守秘義務を伝え、利用者のプライバシーに関する話を他の利用者の前で話さないことを徹底している。 生活空間での利用者のプライバシー保護を徹底している 利用者個々のプライバシーや羞恥心に配慮し、入室の際はノックをして了解を得ることなどを口頭で周知している。また、利用者からの相談事は相談室(個室)で対応している。利用者は男性のみであり、入浴介助など身体的な介助が必要なときは同性介助により実施している。また、他の利用者の居室に勝手に入らないことを取り決め、利用者に注意を徹底しトラブルが起きないように留意している。 利用者個々の意向を尊重しつつ、自立に向け一人ひとりに合った支援に取り組んでいる 一日の流れをホワイトボードに掲示し、利用者の精神・身体の状態を把握して一人ひとりがやりたい事、やりたくない事を自分で決めて生活できるよう援助している。例えば我が強い人であれば、利用者と相性の良い職員から声をかけてもらったり、日中の作業は絶対にしないという人であれば、無理強いせず、居室で過ごしてもらいながら担当医師の助言なども取り入れて声掛けすることで徐々に外に出られるよう取り組んでいるなど、本人の気持ちに沿った支援を実施している。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている	○ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
安全確保や衛生面などをマニュアル化し、職員に周知して実践されている 支援員マニュアルとして、規律や健康管理、防災、事故防止などを整備し、支援については基本マニュアルにまとめている。佐野市は夏場の暑さが顕著であるため熱中症マニュアルも作成されており、職員会議で周知徹底をして各職員が注意することで熱中症を予防している。そのほか、虐待防止や感染症についてマニュアルが作成されており、対応行動ができるよう周知がされている。		
5S、ヒヤリハット、KY活動により、利用者・職員の意識と安全性が高められている 1年前に5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)運動とヒヤリハット、KY(危険予知)活動の3つの取り組みを開始した。KY活動については施設内の3か所に掲示がされており、利用者も意識し始めた段階とのことであったが、実施後の変化として、利用者が時間を守り迅速に行動するようになったとのことであり、事業所としてもこれらの取り組みによる成果を実感しているところである。ヒヤリハットの積極的な取り組みもある。開始後は事故がほぼ生じていないことから、大いに成果があったものと考えられ、高く評価したい点であった。		

Ⅱ サービスの実施項目(サブカテゴリ-4)

サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 15/15
1 評価項目1 個別の支援方針をいかしながら、利用者に合った自立生活を送るための支援をしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 支援方針に基づいて支援を行っている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 必要に応じて、さまざまな情報を提供し、または相談に応じる体制を整えている ☐ 非該当
評価項目1の講評	
利用者個々の状況と支援方針を職員間で共有し、日中活動と一体となった支援をしている アセスメント会議の際には個別の計画を意識して方針を共有し支援を実施している。個別支援計画そのものを共有するというよりも、職員会議の中でアセスメントに勤務者全員が参加することで利用者個々の情報共有をして支援に活かしており、利用者本人について、日中活動も含めた一体的な理解に基づき支援が実施されている。 利用者一人ひとりの特性に合わせた支援を実施している 利用者支援については、例えば、個々の利用者との距離感などに関する研修も実施し、利用者個々に対し、適切な支援ができるよう取り組んでいる。個々に応じた支援として、その人の特性に合わせた支援をすることにしており、その人の興味に沿った会話などで話しやすい状況づくりやきかけづくりをおこなって支援を進展させていくことや、てんかんの人であれば生活リズムへの配慮などをおこなっている。全体的な支援としては、夜間は2時間に一度、利用者全員を対象として見回りをするなど、規則正しい生活ができるよう統一した支援が実施されている。 関係機関と連携し、利用者からの相談に応じて一人ひとりへの支援を実施している 行政機関主催の連絡会などに参加し、地域や利用者に関するさまざまな情報を入手している。利用者は相談支援事業所の担当者が来訪した時に相談をすることができおり、また、事業所から相談したいことがあれば、相談支援員に声をかけて話を聞いてもらっている。利用者から事業所に対して要望がある場合は、その旨を紙に書いて苦情相談ポストに投函して要望を受け付ける仕組みがあり、要望があれば本人と面談して対応し解決にあたっている。	
2 評価項目2 利用者の主体性を尊重し、利用中の生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の状況や希望に沿って生活を楽しめるように取り組んでいる ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 室内は、利用者の状況に応じて快適で落ち着ける環境・空間にしている ☐ 非該当
評価項目2の講評	
生活の潤いとなるさまざまなイベントを主催し、地域の催しにも積極的に参加している 事業所内のイベントでは、球技大会やバーベキュー、流しそうめんや竹の子採り、クリスマス会、ドライブやお花見、雨の日のカラオケ大会など、季節や状況に応じた催しを実施し、利用者と職員が共に楽しんでいる。また、10月には社協のイベント(福祉フェスタ)への参加をしているほか、佐野市で開催される自転車レースに合わせて実施される地域おこしの「マルシェ」に事業者として参加出店し、利用者がキノコやイチジクの販売で売り子を担当したり、ショッピングモール内の展示に参加するなど、生活の潤いとなる豊富なイベントへの参加ができている。 余暇活動や日中作業の様子について、利用者の意欲が高まるような掲示がされている 施設内には、近所の神社へ初詣に出かけた時の様子やスポーツ大会等、施設で行ったイベントの様子の写真がたくさん掲示されている。また、利用者が仕事をしているイチジク農園の様子や草刈りの様子なども掲示されている。そのほか、収穫したイチジクを卸している3件のケーキ屋さんや、県庁の食堂で利用者が作ったシタケが使用されたことを掲示で紹介するなど、利用者の活動が地域の役に立っていることが利用者に伝わる形で紹介されている。 共有スペースは落ち着いた雰囲気であり、快適に過ごせる環境づくりがされている 大きな窓に囲まれ明るい食堂にはソファやテレビが設置され、机と椅子は整頓されて並べられており、落ち着いた雰囲気が醸し出されている。座布団が敷いてある椅子もあり、個別の状況への配慮が窺われた。食事は法人の栄養士が毎月献立を検討し、調理担当者が調理して提供している。献立表からは栄養価やバラエティの配慮がされ、施設で暮らしている利用者の食生活は充実しているものと推察された。 玄関には飲み物の自動販売機があり、毎日夕食後にはお茶やジュースなど、利用者が好きな飲み物を購入できるよう配慮がされている。	

3	評価項目3 利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている			評点(〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 利用者の意向を尊重しつつ、自分でできることは自分で行えるよう働きかけている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 食事、入浴、排泄等の支援は、利用者の状況やペースに合わせて行っている			☐ 非該当
評価項目3の講評					
食事や入浴は基本的に自立しており、意思を尊重しつつ自分で行えるよう支援している 食事は日中活動を含め1日3食を施設で提供し、利用者は皆自立して食事をしている。配膳時は各自が名前付きのトレーを自分で運び、食後は自分で片付けている。排泄も自立している。入浴は基本的に毎日あり、マヒのある人のみ介助をしている。週2、3回しか入浴しない人もいるが、本人の意思であるため尊重している。 本人の能力を生かし、無理強いしない範囲で生活面の自立を支援している 居室の清掃は土日に利用者各自がおこなっている。洗濯については職員が利用者の入浴後に実施し、干すことは利用者がおこなっている。掃除や洗濯はある程度本人におこなってもらっており、本人の能力を生かし生活面の自立を促す支援となっている様子である。また、着替えが苦手な人には声掛けして促し、できない人には手助けをしたり一緒に行う等、個々の状況に合わせ必要な援助をしており、促しつつも本人の意思を尊重し、無理強いしない支援をしていることが推察された。 自立について意識しやすい環境の中で、まずは工賃を得ることに力を入れている 生活面では自炊や買い物が苦手な人も多く、事業所では、まずは日中に仕事をして工賃を得ることに注力している。現在は草刈りなど、自立的に行う仕事も増えており、働けばお金が稼げることを知ってもらえるよう取り組んでいる。短期入所からグループホームへは本人の意欲があれば移行できる。同じ建物内のグループホームの利用者とは食事と一緒に摂るので、利用者はグループホームの生活について話を聞くことができ、自立に向け意欲を持つ人もいる。ピアサポートが自然に行われる環境であり、自立に大いに役立つ環境となっている。					
4	評価項目4 利用者の健康を維持するための支援を行っている			評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 利用者の健康状態や服薬に関して、利用者や家族から必要な情報を収集している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている		☐ 非該当	
評価項目4の講評					
看護師を2名体制にして、より一層利用者個々の健康管理がしやすい状況になっている 同じ建物内に併設するグループホームの看護師に加え、8月から短期入所にも看護師が1名配置され実質2名体制となり、より専門的な支援がおこないやすい環境となる。利用者の健康状態は日々の検温に加え、利用者個別の状況により血圧等を看護師が定期的に確認し結果は細やかに記録されている。医師の意見書や看護サマリー、服薬説明書など支援に必要な情報は個別ファイルに保管し、看護師から職員に伝えて必要な指示をして職員間で共有されている。健康診断では大部分の利用者の通院に看護師が同行して医師と意見交換をしている。 薬の管理を徹底し、誤薬を防止している 利用者の薬は保健室で管理しており、薬は看護師がセットして1週間分を保管している。朝、昼、晩の与薬毎にケースに分類しており、ケースと薬包に利用者の名前を記し誤薬がないよう配慮をしている。与薬は昼は看護師が行い、朝晩は支援職員がおこなっている。服薬時はダブルチェックの上、薬を利用者の口に入れ飲みこんだかどうかまでを確認し、チェック表に記録をしている。与薬の手順は定められており、職員に周知され、看護師が不在時にも確実に利用者が服薬できるよう体制を整えている。なお、看護師は職員の健康状況も把握して指導をしている。 緊急時の連絡体制を整備し、また、感染症対策を徹底している 緊急連絡網を整備しており、事務所に掲示して職員への周知がされている。夜間は勤務者から看護師、もしくは管理者に連絡して指示を仰ぐことになっている。緊急時の送迎など連絡後の対応については課題として挙げられており、今後の解決が待たれるところとなっている。事業継続計画や緊急対応に関するマニュアルについてはファイルを職員が見やすいところに置いて周知が図られている。感染症対策は対応手順を明確にしており、日常の予防策や発生時の消毒、消毒時の電解水の使用、手洗い演習の実施等を徹底することで蔓延を防止することができている。					

5	評価項目5 家族等との交流・連携を図っている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 必要に応じて、家族等への情報提供や相談に乗るなど支援をしている		☐ 非該当
評価項目5の講評				
利用者本人が手紙や電話で家族に連絡する際は手助けするなどの支援をしている 家族がいる利用者の中には、家族に手紙を出している利用者もあり、また、2、3名は家族に電話連絡をしている。利用者が手紙や電話で連絡をする際は手助けしたり、一緒に行くなどの支援もしている。事業所から家族には必要がある時に連絡しているが、親がいない場合は相談支援事業所の担当者に連絡をして要件を伝えており、相談員や相談事業所などとの連携は密に行えるようになってきている。 事業所からは必要に応じ利用者個別の状況を家族に連絡している 家族等には、利用者同士のけんかや窃盗などがあった場合は連絡を入れ、家族から本人に注意をしてもらう、叱ってもらう等の連携もしている。家族からの連絡は、定期的に連絡してくる家族もあれば、月に1回利用者を迎えに来る家族もあり、その場合はその場で利用者の状況を説明したりしている。本人と家族の関係性については難しい面もあり、個別の状況に応じた対応をしている。				
6	評価項目6 地域で自立した生活を送れるよう支援をしている			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 必要に応じて、関係機関(日中活動事業所、相談支援事業所等)と情報共有を行い、支援に活かしている		☐ 非該当	
評価項目6の講評				
利用者には自立に向けて有益な情報が伝えられている 廊下や食堂の掲示板には、社協や自治体が主催する地域交流イベントの案内をしたり、利用者が作ったシイタケが県庁の食堂で提供されていることや、利用者が育てて収穫したイチジクを使用しているケーキ屋さんの記事を掲示しており、地域の情報を提供するとともに、利用者の仕事が地域で役立てられていることを利用者に伝えている。 地域のイベントや交流事業など、利用者が地域の人たちと触れ合う機会が豊富にある 社協の福祉フェスタへの参加や、地域おこしの「マルシェ」に参加してB型事業の商品を販売するなど、地域に出る機会を豊富に持っている。民間の団体が主催する地域のごみ拾いにも利用者が参加している。花火大会の時もごみ拾いを実施し、利用者が5キロ程度歩くこともある。また、お祭りへの参加も多い。福祉フェスタや地域交流イベント、地域の清掃活動などの行事に参加する事で、地域の人達と交流する機会を持つことができおり、利用者も楽しそうに参加するようになってきている。				

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当	
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当	
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当	
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
苦情解決制度について利用者に周知し、また、利用者の声を聴くことに取り組んでいる 重要事項説明書に苦情窓口と責任者、第三者委員と県の担当課および県社協の窓口を記載して契約時に周知がされており、館内に掲示している。また、第三者委員については連絡先を明記して周知している。苦情があれば管理者(責任者)から本部に報告され、管理者会議において内容についての話し合いが持たれている。また、利用者から意見があった場合は毎月の職員会議で必ず話し合うことにしている。日常的な利用者の意見などは利用者会議を開催して聞く機会を設けているほか、手紙や口頭で利用者から活発に意見や要望が挙がっており対応している。 法人本部と連携し、虐待防止に力を入れて取り組んでいる 虐待防止委員会を設置している。毎月の職員会議では、冒頭に20分程度時間をとって虐待防止会議を開催し、虐待事例の共有と職員個々のセルフチェックを実施している。また、リモートでの虐待事例研修に職員が参加している。法人本部からは毎月担当職員が来訪し、虐待防止研修を実施しており、虐待防止に向け法人と協同して精力的に取り組む、それを継続することで職員への意識付けが図られている。 災害や感染症発生時の対応方法を定めており、特に感染予防については徹底されている 自然災害委員会と感染対策委員会を設置しており、災害については自然災害委員会が担当して災害リスクの把握に努め、備蓄品の準備や避難等について話し合っている。災害BCPは令和6年9月から施行されており、災害想定の上、役割分担や水の確保、食材の備蓄などの対策されている。防災訓練は何2回、火災と水害発生時の避難訓練を実施しており、全員が参加している。また、年1回は夜間を想定した訓練を昼に実施している。感染症対策では日常の予防策を徹底するほか、看護師による感染症対策訓練を実施する等、注力して取り組んでいる。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている
タイトル①	日中の通所先とグループホームが併設され、自立に向けた環境が整えられている	
内容①	日中活動では、毎日の作業は週替わりのローテーションとして、キノコ栽培、畑でのイチジク栽培、作業場でイチジクの加工を利用者が実施している。全員が工賃を少しでも多く得られるよう工夫をしており、個別の工賃にはばらつきが大きいものの、個々の工賃を高めるための努力がなされている。利用者としても目先が変わることで飽きずに作業でき、また、日中に多様な作業に携わることで個々人が仕事の嗜好や得手不得手などを自覚しやすい環境となっており、グループホームが併設されていることも含め、自立に向け充実した生活が送れる環境がある。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	個別の支援方針をいかしながら、利用者に合った自立生活を送るための支援をしている
タイトル②	農作業を通じて利用者の社会参加を推進し、社会の役に立つという自覚を醸成している	
内容②	夏場には農家からの依頼があり、草刈りの作業を請け負っている。草刈りに用いる刈払機の使用については、利用者が1日講習に行き修了証を得て実施しており、グループホーム利用者で4名、短期入所利用者も1名が刈払機の修了証を所持している。資格取得の支援は、利用者の社会参加や社会の役に立っているという自覚につながる取り組みと言える。理事長の方針である「自然治癒力、自然と一体になることがその人の改善につながる。」が、日中の農作業において具現化している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	KY活動やヒヤリハットの取り組みに注力し、事故予防やリスクの低減に成果がでている	
内容③	KY活動では、毎日、昼の引継ぎ時に班ごとにその日の作業について、危険ポイントを挙げ、対応について職員と利用者皆で伝えあっている。作業開始時は水分補給や足元確認など、その日の安全目標を皆で3回唱和することで、利用者も職員も注意するようになり、開始後は事故がほぼ発生していない。また、ヒヤリハットについてもこの1年継続して取り組んでいる。利用者からも危険個所の意見が出されており、この1年間で3件の改善がなされているなど、力を入れた取り組みとなっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日中活動に農作業を取り入れ、自然と一体になることで本人の潜在的な能力を引き出す支援に取り組んでいる
	内容	自然に恵まれた環境の中で土や農作物に触れ、地域の人と関わって過ごせる環境があり、その環境において、「人が本来持ちうる自然治癒力を活かして潜在的な能力を引き出すこと」を法人の支援の基本として個々の支援を実施している。農福連携を掲げ、「自然と一体になることがその人の改善につながる」という信念のもとに日中の就労継続支援B型事業と一体となった支援が実施されており、キノコ栽培や畑でのイチジク栽培など、生活の中で日々自然と接し、地域の人達とふれあいながら生活する中で、自然治癒の効果も大いに期待できる環境となっている。
2	タイトル	地域との連携の中で地域の福祉ニーズに応え、また、利用者が様々な社会参加の機会を得られるよう取り組んでいる
	内容	他の事業所で利用を断られた人の受け入れに積極的に取り組むほか、市からの要請に応じ1泊2日や2泊3日といったニーズに応じ1室常に空室を用意しており、レスパイトのニーズにも応えている。経営的にはマイナスであるが、社会貢献的な意味合いもあり継続する予定である。地域での活動では農家の草刈りを手伝ったり、地域イベントに参加するなど、利用者が積極的に地域に出ており、社会参加の機会が豊富に設けられている。
3	タイトル	就労継続支援B型事業所とグループホームが併設されており、見守りや看護等、一体となった支援が実施されている
	内容	日中と夕方の時間帯は短期入所と日中活動の双方で人手を厚くしているほか、看護師を増員し、施設全体として2名体制にする等、複数の事業所を併設する利点を生かし、人手を厚くして見守りと支援の体制を強化している。支援については、グループホームの利用者も含め、利用者個々のアセスメントを毎月の職員会議の中で実施し、アセスメントに勤務者全員が参加することで、利用者個別の状況や支援方針を職場全体で共有して、日中活動と一体となった日々の支援が実施されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域との連携により自立に向けた支援が促進されており、今後もさらに充実させていく意向がある
	内容	短期入所の利用者は全員が同じ建物内で運営する法人の就労継続B型事業所に通所している。日中の作業で利用者は畑での栽培や収穫をして農業に勤しみ、また、近隣の農家からの草刈りの仕事の依頼を受けるなど、地域の中で人と関わりながら健康的な生活を送ることができている。事業所では「人との出会いを経験させてあげたい」という思いのもと、事業所として今後はさらに地域との連携を深めていく意向がある。今後もさまざまな体験の場を設けることで、地域と連携した自立支援がさらに充実化することが期待できる。
2	タイトル	外部への情報公開のツールとして、WEBを一層上手に活用していくことが期待される
	内容	法人のウェブページでは日中の作業や暮らしの様子などが写真と記事で丁寧に紹介されており、また、公開されているブログでは収穫の様子などが写真で伝えられている。法人として外部への情報提供を積極的に実施しているが、ブログの最新記事が1年前のものであった等、更新やメンテナンスには向上の余地がありそうである。内容の精査や更新頻度の向上、管理体制の構築などにより、WEBを外部への情報公開ツールとして、より一層上手に活用していく事を期待したい。
3	タイトル	
	内容	